上峰町文化財調査報告書第57集

上峰町内遺跡確認調査XV

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—令和４年度—

2024年3月

上峰町教育委員会

上峰町文化財調査報告書第57集

上峰町内遺跡確認調査XV

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—令和４年度—

2024年3月

上峰町教育委員会

序

従来、上峰町は「遺跡の宝庫」と言われてきました。北部の脊振山系、その南麓から派生し南北に延びる更新世丘陵と谷、さらに有明海へと続く沖積平野と変化に富んだ地形を含む町域には、いたるところに先人たちの暮らしの足跡が刻み込まれています。教育委員会では、こうした人々の暮らしの足跡、歴史的資産を保存活用し、将来へ継承していくために、開発と文化財の保護との調整に努めてまいりました。

近世以来の純農村集落の面影を色濃く残してきた上峰町は、昭和40年代後半から「農工併進のまちづくり」を理念に掲げ、工業団地の整備による大規模工場の誘致、農業基盤整備事業の実施とまちづくりを進めてまいりました。町の中央を国道34号が東西に横断し、ここから、福岡県久留米市へは県道が通るという恵まれた交通環境に位置しており、佐賀市や鳥栖市、久留米市へも最適な通勤圏にあるところから、近年人口も着実に伸び、ベッドタウンとして発展してまいりました。これに伴い、各種商業施設、事業所等の町内進出も相次ぎ、上峰町は平成元年の町制施行以来、この30余年間で近代的な田園都市へと大きく変貌を遂げました。

本書は、上峰町内の埋蔵文化財の保護と開発との調整を図るために上峰町が平成元年度より国庫補助事業の適用を受け実施してまいりました町内遺跡確認調査の報告書であります。この開発に伴う町内遺跡確認調査の実施によって多くの遺跡が破壊、消滅をまぬかれ保護されてきました。この報告書を学術的な資料として、また今後の埋蔵文化財保護と開発との調整を図るための資料として役立てていただければ幸いです。

なお、この町内遺跡確認調査にあたって、ご指導、ご協力をいただきました佐賀県、開発事業主体者をはじめ、関係各位に対し深く感謝申し上げます。

令和6年3月

上峰町教育委員会
教育長　野　口　敏　雄

例　言

1. 本書は、平成元年度から国庫補助事業として、上峰町内で実施してきた町内遺跡確認調査のうち令和４年度に実施した町内遺跡確認調査の報告書である。
2. 本書は、令和５年度の国庫補助事業により、上峰町教育委員会が作成、刊行したものである。
3. 町内遺跡確認調査は、上峰町教育委員会が実施した。
4. 現場での発掘作業は、重機により表土剥ぎを行い、調査員の指示により発掘作業員が精査し、遺構・遺物の有無を確認した。
5. 現場での図面、写真による記録作業は、調査員が行った。
6. 遺構などの現場における写真撮影及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
7. 調査後の出土遺物、記録類の簡単な整理作業は、当該年度にそれぞれ実施した。
8. 本書中の挿図・写真図版などの作成作業は、調査員の指示により、整理作業員が行った。
9. 本書の執筆・編集は、松浦智が行った。
10. 本報告書に係る町内遺跡確認調査で出土した全ての遺物及び現場で作成した図面・写真・その他の記録類は、上峰町教育委員会で保管している。

凡　例

1. 「確認調査」・「試掘調査」の用語については、遺跡の範囲内外を基準に「確認調査」・「試掘調査」と区分して取り扱われているが、本書では「確認調査」と統一し表記している。
2. 確認調査番号については、年度ごとに令和をあらわす「R」、年度を表す「数字」、ハイフンの後に一連の番号を付して、調査番号としている。本書中、調査位置図・確認調査一覧表・報文中の調査番号は一致する。

   例）令和４年度に３番目に実施した○○遺跡確認調査　　R04-3　○○遺跡
3. 「調査後の措置」については、本文中の標記は最終結果を記載したが、各年度の一覧表中の標記は当該年度末時点での状況を記載している。
4. 本文・挿図中の方位については、全て座標北を基準としている。
5. 先の市町村合併により、上峰町周辺の町村も合併が進み町村名が変更になっている。本書では、必要に応じて現在の市町名のあとに（　）で旧市町村名も併記している。

調 査 組 織

令和４年度

調 査 主 体	上峰町教育委員会			
調査事務局	総　括	野 口 敏 雄	上峰町教育委員会	教育長
	事務主任	宗 雲 英 則	〃	文化課長
	経費執行	松 浦 智	〃	文化課係長
	〃	寺 崎 利 絵	〃	文化課文化係
	〃	吉 岡 暁	〃	文化課文化係
	〃	原 田 大 介	〃	文化課文化財保護専門員
調 査 組 織	調 査 員	松 浦 智	〃	文化課係長
		吉 岡 暁	〃	文化課文化係
		原 田 大 介	〃	文化課文化財保護専門員
調 査 指 導		佐賀県文化・観光局　文化課　文化財保護室		

発掘作業参加者

令和４年度

石橋　泰隆・北野　薫・桑原　扶示康・桑原　美佐緒・副島　敏徳・生島　みどり・白土　翁・杉谷　嘉泰・田中　一馬・堤　脩次郎・松尾　憲道・宮崎　正秋・牟田　康孝

整理作業参加者

江崎　愛子・島　美保子（令和５年度　整理作業員）

目　次

序
例言・凡例
調査組織・発掘作業参加者・整理作業参加者

Ⅰ．上峰町の位置と環境……1
1．上峰町の位置……1
2．歴史的環境……1

Ⅱ．調査の概要……8
1．調査に至る経緯……8
2．調査の方法……8

Ⅲ．令和４年度の確認調査……11
R04-1　三上遺跡(1)……16
R04-2　坊所二本谷遺跡(1)……17
R04-3　西峰遺跡(1)・塔の塚廃寺跡……18
R04-4　三上遺跡(2)……19
R04-5　船石遺跡……19
R04-6　坊所三本松遺跡……20
R04-7　西前牟田遺跡……22
R04-8　三上遺跡(3)……23
R04-9　三上遺跡(4)……23
R04-10　杉寺遺跡……24
R04-11　三上遺跡(5)……25
R04-12　西峰遺跡(2)……25
R04-13　三上遺跡(6)……26
R04-14　外記遺跡(1)……26
R04-15　坊所五本谷遺跡……27
R04-16　坊所二本谷遺跡(2)……27
R04-17　西峰遺跡(3)……28
R04-18　坊所二本松遺跡……29
R04-19　三上遺跡(7)……31
R04-20　外記遺跡(2)……33
R04-21　四本谷遺跡……34
R04-22　外記遺跡(3)……34

挿図目次

Fig. 1 上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡（1/50,000）……2
2 上峰町遺跡地図（1/50,000）……9
3 令和４年度　確認調査地位置図（1/50,000）……15
4 R04-1　三上遺跡(1)（1/5,000）……16
5 R04-1　トレンチ設定図（1/1,000）……16
6 R04-1　トレンチ略図（1/200）……16
7 R04-2　坊所二本谷遺跡(1)（1/5,000）……17
8 R04-3　西峰遺跡(1)、塔の塚廃寺跡（1/5,000）……18
9 R04-4　三上遺跡(2)（1/5,000）……19
10 R04-5　船石遺跡（1/5,000）……19
11 R04-6　坊所三本松遺跡（1/5,000）……20
12 R04-6　トレンチ設定図（1/1,500）……20
13 R04-6　トレンチ略図（1/200）……20
14 R04-7　西前牟田遺跡（1/5,000）……22
15 R04-7　トレンチ設定図（1/1,000）……22
16 R04-7　トレンチ略図（1/200）……22
17 R04-8　三上遺跡(3)（1/5,000）……23
18 R04-9　三上遺跡(4)（1/5,000）……23
19 R04-10　杉寺遺跡（1/5,000）……24
20 R04-10　トレンチ設定図（1/1,000）……24
21 R04-10　トレンチ略図（1/200）……24
22 R04-11　三上遺跡(5)（1/5,000）……25
23 R04-12　西峰遺跡(2)（1/5,000）……25
24 R04-13　三上遺跡(6)（1/5,000）……26
25 R04-14　外記遺跡(1)（1/5,000）……26
26 R04-15　坊所五本谷遺跡（1/5,000）……27
27 R04-16　坊所二本谷遺跡(2)（1/5,000）……27
28 R04-17　西峰遺跡(3)（1/5,000）……28
29 R04-17　トレンチ設定図（1/1,000）……28
30 R04-17　トレンチ略図（1/200）……28
31 R04-18　坊所二本松遺跡（1/5,000）……29
32 R04-18　トレンチ設定図（1/1,000）……29
33 R04-18　トレンチ略図（1/200）……29
34 R04-19　三上遺跡(7)（1/5,000）……31
35 R04-19　トレンチ設定図（1/1,500）……31
36 R04-19　トレンチ略図（1/200）……31
37 R04-20　外記遺跡(2)（1/5,000）……33

38 R04-20 トレンチ設定図（1/500）……33
39 R04-20 トレンチ略図（1/200）……33
40 R04-21 四本谷遺跡（1/5,000）……34
41 R04-22 外記遺跡(3)（1/5,000）……34

表 目 次

Tab. 1 令和４年度 町内遺跡確認調査一覧表 報告書抄録……12・13・14

図 版 目 次

PL. 1 R04-1 三上遺跡(1) №2 試掘溝（東から）……16
2 R04-1 三上遺跡(1) №2 試掘溝 焼土坑検出状況（北から）……16
3 R04-2 坊所二本谷遺跡(1) 調査地近景（南から）……17
4 R04-2 坊所二本谷遺跡(1) №1 試掘溝（北から）……17
5 R04-2 坊所二本谷遺跡(1) №1 試掘溝断面……17
6 R04-3 西峰遺跡(1)、塔の塚廃寺跡 調査地近景（南西から）……18
7 R04-3 西峰遺跡(1)、塔の塚廃寺跡 №1 試掘溝（北から）……18
8 R04-3 西峰遺跡(1)、塔の塚廃寺跡 №6 試掘溝（北西から）……18
9 R04-4 三上遺跡(2) 調査地近景（南東から）……19
10 R04-5 船石遺跡 №1 試掘溝（西から）……19
11 R04-6 坊所三本松遺跡 調査地近景（北東から）……20
12 R04-6 坊所三本松遺跡 №2 試掘溝（南から）……20
13 R04-6 坊所三本松遺跡 №2 試掘溝 竪穴建物跡検出状況（北西から）……21
14 R04-6 坊所三本松遺跡 №2 試掘溝断面……21
15 R04-6 坊所三本松遺跡 №4 試掘溝（南から）……21
16 R04-6 坊所三本松遺跡 №4 試掘溝 遺構検出状況（北東から）……21
17 R04-6 坊所三本松遺跡 №4 試掘溝断面……21
18 R04-6 坊所三本松遺跡 №2 試掘溝 機械掘削状況……21
19 R04-7 西前牟田遺跡 №1 試掘溝（東から）……22
20 R04-7 西前牟田遺跡 №2 試掘溝（南から）……22
21 R04-8 三上遺跡(3) 調査地近景（南東から）……23
22 R04-9 三上遺跡(4) №1 試掘溝（東から）……23
23 R04-10 杉寺遺跡 調査地全景（南上空から）……24
24 R04-10 杉寺遺跡 №1 試掘溝 遺構検出状況（写真上が東）……24
25 R04-11 三上遺跡(5) 調査地近景（南西から）……25
26 R04-12 西峰遺跡(2) №2 試掘溝（東から）……25

27 R04-13 三上遺跡(6) 調査地全景（南上空から） ……26
28 R04-14 外記遺跡(1) 調査地近景（東から） ……26
29 R04-15 坊所五本谷遺跡 調査地近景（南西から） ……27
30 R04-17 西峰遺跡(3) №2 試掘溝（西から） ……28
31 R04-17 西峰遺跡(3) №3 試掘溝（西から） ……28
32 R04-18 坊所二本松遺跡 調査地全景（南上空から） ……29
33 R04-18 坊所二本松遺跡 №1 試掘溝（東から） ……29
34 R04-18 坊所二本松遺跡 №1 試掘溝 遺構検出状況（写真上が北） ……30
35 R04-18 坊所二本松遺跡 №2 試掘溝（東から） ……30
36 R04-18 坊所二本松遺跡 №2 試掘溝 遺構検出状況（写真上が北） ……30
37 R04-18 坊所二本松遺跡 №2 試掘溝 甕棺検出状況（東から） ……30
38 R04-18 坊所二本松遺跡 №2 試掘溝断面 ……30
39 R04-18 坊所二本松遺跡 №3 試掘溝（東から） ……30
40 R04-18 坊所二本松遺跡 №3 試掘溝 遺構検出状況（写真上が北） ……30
41 R04-18 坊所二本松遺跡 №3 試掘溝 甕棺検出状況（南から） ……30
42 R04-19 三上遺跡(7) 調査地全景（南上空から） ……32
43 R04-19 三上遺跡(7) №1 試掘溝 遺構検出状況（写真上が南） ……32
44 R04-19 三上遺跡(7) №2 試掘溝 遺構検出状況（写真上が南） ……32
45 R04-19 三上遺跡(7) №3 試掘溝 遺構検出状況（写真上が南） ……32
46 R04-19 三上遺跡(7) №5 試掘溝 遺構検出状況（写真上が南） ……32
47 R04-19 三上遺跡(7) №6 試掘溝 遺構検出状況（写真上が南） ……32
48 R04-19 三上遺跡(7) №7 試掘溝 遺構検出状況（写真上が南） ……32
49 R04-19 三上遺跡(7) №9 試掘溝 遺構検出状況（写真上が南） ……32
50 R04-20 外記遺跡(2) №1 試掘溝（西から） ……33
51 R04-20 外記遺跡(2) №2 試掘溝（西から） ……33
52 R04-21 四本谷遺跡 №1 試掘溝（北から） ……34
53 R04-22 外記遺跡(3) 調査地近景（北から） ……34

Ⅰ．上峰町の位置と環境

1．上峰町の位置（Fig. 1）

佐賀県三養基郡上峰町は、佐賀県東部の鍋倉地帯である佐賀平野のほぼ中央、三養基郡の西端に位置しており、東部は三養基郡みやき町（旧中原町・旧北茂安町・旧三根町）と、西部は神埼郡吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）と境を接している。また、この神埼郡との境界は、古代以来の三根郡と神埼郡との郡界を踏襲しており、現在も町のほぼ中央を東西に横断する国道34号付近の旧三田川町と境を接する地域は郡境地区と呼称されている。

島栖市から佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）に至る佐賀県東部には、北部に脊振山地、その南麓に発達する更新世丘陵群、さらに南部には有明海へと続く沖積平野が展開するという、変化に富んだ地形が発達している。なかでも、山麓部から沖積平野部へ移行する部分に発達する扇状地を起源とする更新世丘陵群は、山麓部に源を発し有明海へと南流する大小の河川によって浸食され北から南へ延びる舌状を呈した段丘を形成している。そして、これらの段丘の多くは古くから人々の生活の場として利用され、段丘上には数多くの遺跡が分布し、遺跡数、内容ともに県内でも有数の地域となっている。

そのようななか、南北に細長い町域をもつ上峰町においても、北部に脊振山地の山麓、中央部に更新世丘陵群、南部に沖積平野と、この佐賀県東部の特徴的な地形が展開しており、とくに中央部に発達する更新世丘陵地帯を中心に数多くの遺跡の分布が知られ、古くから「遺跡の宝庫」と呼ばれてきた。

2．歴史的環境（Fig. 1）

上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観すると、前述のとおり、脊振山山麓部から更新世丘陵部におよぶ一帯が古くから人々の生活の舞台となっており、山麓部及び各段丘上には数多くの遺跡の存在が知られ、県内においても特に弥生時代の遺跡を中心に遺跡の分布密度が高い地域となっている。沖積地を望む丘陵部のほとんどが、各時代の集落あるいは墓域として占有され、とりわけ、弥生時代以降の遺跡を縄文時代以前の遺跡と比較すると、量的にも、質的にも爆発的に増加、充実する。島栖市安永田遺跡[1]は、弥生時代中期末から後期初頭にかけての銅鐸・銅矛の鋳型や轡の羽口片、鉄製のヤリガンナなどが出土した青銅器の工房跡として知られている。みやき町（旧中原町）姫方遺跡[2]は甕棺墓が400基検出され、弥生時代中期前半から後期前半にかけて墓地が継続したとみられる。みやき町(旧北茂安町)検見谷遺跡[3]は、昭和60年にゴルフ場の敷地改修工事中に埋納された12本の銅矛が偶然発見されたことで有名な遺跡である。吉野ヶ里町（旧東脊振村）三津永田遺跡[4]は、弥生時代中期前半から後期前半にかけての甕棺墓が100基以上確認され、後期前半段階の甕棺墓より後漢の流霞文緑獣帯鏡と素環頭大刀が出土している。神埼市（旧神埼町）・吉野ヶ里町（旧三田川町・旧東脊振村）に跨る吉野ヶ里遺跡[5]は、全長2.5kmの濠に囲まれた日本最大規模の弥生時代の環壕集落跡として知られている。昭和61年から調査を開始し、これまで弥生時代前期から後期末にわたる多数の竪穴建物跡や高床倉庫群跡、3,000基を超える甕棺墓、弥生時代中期の王墓と考えられる墳丘墓などが発掘されている。後期になると集落の規模が拡大し、弥生時代の「ムラ」から各平野単位の「クニ」への発展を窺い知ることが出来る。南北約12km、東西約3kmと南北に細長い町域をもつ本町においても同様に、町の北部から中央部を占める更新世段丘上に弥生時代や奈良時代を中心に各時代の遺跡が分布している。

先土器時代の遺跡についてみると、各段丘で層序が異なる本地域においては本格的な調査がなされていないの

上峰町
1 奥の院古墳群
2 鎮西山遺跡
3 二本柳古墳群
4 鎮西山南麓古墳群
5 塩三本松遺跡
6 横岳原古墳群
7 谷道古墳群
8 塩三本柳遺跡
9 青柳古墳群
10 新宮古墳群
11 原原原遺跡
12 堤六本谷遺跡
13 堤土遺跡
14 八藤遺跡
15 二塚山遺跡
16 五本谷遺跡
17 船石遺跡
18 船石南遺跡
19 切通遺跡
20 一本谷遺跡
21 坊所一本谷遺跡
22 上のびゅう窯古墳
23 目達原古墳群
24 坊所遺跡
25 樫寺遺跡
26 杉寺遺跡
27 坊所二本松遺跡
28 坊所三本松遺跡
29 塔の屋敷寺跡
30 西前平田遺跡
31 米多城跡
32 前平原遺跡
33 加茂橋遺集落跡
34 江迫城跡
35 一ノ橋横道集落跡

みやき町(旧中原町)
36 山田銅青器出土地
37 山田古墳群
38 大塚古墳
39 八藤北遺跡
40 貴原遺跡
41 原方遺跡
42 原方前方後円墳
43 原方原遺跡
44 ドンドン落遺跡
45 町南遺跡
46 天神遺跡
47 西海水遺跡
みやき町(旧北茂安町)
48 宝満谷遺跡
49 宝満宮前方後円墳
50 大塚古墳
51 寛尾銅剣出土遺跡
みやき町(旧三根町)
52 本分貝塚
吉野ヶ里町(旧三田川町)
53 吉野ヶ里丘陵遺跡群
54 下中杜遺跡
55 下藤貝塚
神埼市(旧神埼町)
56 志波屋六本松遺跡
57 伊勢塚前方後円墳
58 荒田遺跡
吉野ヶ里町(旧東背振村)
59 西石動古墳群
60 鴨瀬ヶ谷遺跡
61 三津永田遺跡
62 西石動遺跡
63 松原遺跡
64 寺上廃寺跡
65 横田遺跡

Fig. 1　上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡（1/50,000）

が現状で、断片的な遺物の出土、採取にとどまっている。町内では、平成3・4年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡6～9区の調査において細石刃1点とこの時期のものと考えられる尖頭器・石核などの石器類が少量出土しているが、これらの石器が後世の竪穴建物跡や土坑などの遺構内から出土したものであり、町内全域では旧石器時代と判別できる遺構は確認されていない[6]。周辺地域では、吉野ヶ里町(旧三田川町)との境界に位置する二塚山丘陵の吉野ヶ里町(旧三田川町)側からナイフ形石器の採取例が報告されている[7]。また、平成5年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡下層における阿蘇4火砕流跡と埋没林に係る調査において、先土器時代の年代示標となっている姶良・Tn火山灰（AT）の含有ピークが、通常の丘陵上の塊蔵文化財調査において遺構検出面としている「地山」の表層を構成する黄褐色風積土層の最上部付近、アカホヤ含有層のやや下部にて検出されている[8]。

縄文時代になると、みやき町（旧中原町）香田遺跡[9]や吉野ヶ里町（旧東脊振村）戦場ヶ谷遺跡[10]などが出現する。町内においても、これまでも町北部の丘陵部から土器や石器が、耕作や先覚者の遺跡の表面観察などによって断片的に出土、採取されていたが、上峰北部農業基盤整備事業に伴う平成元年度の船石遺跡10・11区[11]、平成2年度から5年度にわたり実施した八藤遺跡[12]、平成9年度に行われた青柳古墳群1区[13]の調査において、縄文時代の遺構や遺物がまとまって確認されている。船石遺跡10区では縄文時代後期の竪穴建物跡、船石遺跡11区では中期の竪穴建物跡、晩期の埋甕などが確認されている。八藤遺跡では縄文時代前期や後期段階の土坑が確認され、土器とともに石匙・石剣・石鏃・石斧などの石器類が数多く出土している。青柳古墳群1区の調査では、縄文時代の土坑6基が検出され、早期から前期にかけての押型文土器・撚糸文土器、後期から晩期にかけての鐘崎式土器・黒川式土器・刻目帯文土器などが出土している。また、町中南部の坊所地区では、三上遺跡で早期の押型文土器を伴う土坑が確認されるなど比較的古い時期の遺跡の調査例も増加しており、今後のさらなる調査例の増加が期待されている。

弥生時代になると、遺跡の数や規模、その内容が飛躍的に増加、充実することは先に触れたが、早くから『魏志倭人伝』の「弥奴国」の所在地を佐賀平野東部、なかでも三養基郡西部の旧三根郡にあてる論考が行われてきたことは周知のことである。旧三根郡に所属する上峰町においても、丘陵部のほとんどにこの時期の遺跡が展開している。しかし、町の南部や中央部の米多地区、坊所地区の丘陵部は、中世以降集落として発達し、早くから宅地化が進み、本格的な発掘調査の例に乏しく、わずかに再開発に伴い部分的に小規模の発掘調査が行われているに過ぎず、遺跡の詳細について把握できていないのが現状である。これに対して、町北部の大字堤地区では、近年の工業団地建設や農業基盤整備事業など大型開発に伴い広範囲かつ大規模な発掘調査が実施され、各遺跡から当時の社会の様子を知るうえで貴重な資料が得られている。町内の代表的な遺跡としては、切通遺跡[14]、二塚山遺跡[15]、一本谷遺跡[16]、船石遺跡[17]などが知られている。切通遺跡は、昭和31年に切通し交差点北西側の丘陵の土取り工事中に約40基の甕棺墓が出土したことを受けて調査が実施され、弥生時代中期前半の甕棺内から細形銅剣1点やゴホウラ貝製腕輪3点が出土している。二塚山遺跡は、佐賀県東部中核工業団地の建設造成工事に伴い昭和49年から51年にかけて実施された調査で、弥生時代前期末から後期後半にかけての甕棺墓、土坑墓、箱式石棺墓など約300基を検出し、連弧文「精白」銘鏡や複波文縁獣帯鏡などの舶載鏡、小型倣製鏡、鉄剣・鉄矛・鉄刀の鉄製武具など、貴重な副葬品が出土している。一本谷遺跡は、佐賀県住宅供給公社の宅地造成に伴い昭和57年に実施された調査において、弥生時代前期末から中期前葉段階と後期中頃から後期後半にかけての竪穴建物跡や貯蔵穴跡が確認され、時期的な集落構成の変遷が確認できる貴重な遺跡である。船石遺跡は、昭和57年に地区運動広場整備事業に伴い実施された調査で、5世紀代の古墳3基とともに弥生時代中期の支石墓をはじめ多数の

甕棺墓が確認された複合遺跡である。また、昭和60年から平成5年度にかけて実施された上峰北部県営農業基盤整備事業に伴う船石遺跡2～10・12区[18]、船石南遺跡1～8区[19]や八藤遺跡2・4～6、9～11区[20]の調査などから弥生時代前期から後期に及ぶ竪穴建物跡や甕棺墓、土坑墓などが多数検出されており、船石南遺跡では調査区が隣接する1・2・6区から弥生時代前期末から中期中葉にかけての甕棺墓が499基確認され、墓壙同士が複雑に切り合っている。また、これまで弥生時代の実態が不鮮明であった町内中南部の坊所地区の樫寺遺跡[21]や坊所二本松遺跡[22]、町内南部の前牟田地区の西前牟田遺跡[23]においても調査が実施され、少しずつ様相が把握できるようになった。平成29年から30年にかけて実施されたふるさと学館南側一帯の分譲宅地造成工事に伴う樫寺遺跡7～12区の調査では、弥生時代前期中葉から後期にかけての竪穴建物跡・土坑・溝跡・甕棺墓などが確認された。また、坊所丘陵南端の段丘崖上に立地する坊所二本松遺跡1・2区の調査では、弥生時代中期前半から中期後半にかけての甕棺墓群が確認されている。平成20年に実施された県道神埼北茂安線改良工事に伴う西前牟田遺跡2区の調査では、弥生時代中期後半の竪穴建物跡や土坑などが確認されている。

古墳時代に入ると、この地域にも首長墓が出現する。初頭の時期にはみやき町(旧中原町)姫方原遺跡[24]、五本谷遺跡[25]などにおいて方形周溝墓が営まれ、一本谷遺跡[26]では内部主体として木棺を安置した古墳時代前期の円形周溝墓が確認されている。中期段階になると、佐賀県東部では脊振山地の南麓や丘陵部に大型の前方後円墳が築造されるようになり、上峰町西南部から吉野ヶ里町（旧三田川町）に跨る目達原古墳群[27]、佐賀市大和町（旧大和町）船塚古墳[28]などが知られ、後期には鳥栖市剣塚古墳[29]や庚申堂塚古墳[30]、みやき町(旧中原町)姫方古墳[31]、神埼市（旧神埼町）伊勢塚古墳[32]、佐賀市大和町（旧大和町）小隈山古墳[33]などが築かれるようになる。また、後期には現在長崎自動車道や県道佐賀川久保 - 鳥栖線が通る山麓部から丘陵部に跨る一帯に小円墳を中心とした古墳が多数築かれ、それぞれが山麓部の尾根や谷あるいは丘陵を単位として後期古墳群を形成している。

後の『肥前風土記』にみえる三根郡米多郷に属する当時の上峰町一帯は、『古事記』、『国造本紀』などの記事によれば応神天皇の曾孫にあたる「都紀女加」なる人物が初代の米多国造として中央より下向した地域に比定され、その中心は、町南西部の米多地区から吉野ヶ里町（旧三田川町）東部の目達原（米多の原）一帯にあったと推定されている。目達原古墳群の中で町内の主要古墳は、都紀女加を始祖とする米多国造一族の墳墓として、5世紀中頃に造営されたと考えられる上のびゅう塚古墳（陵墓「都紀女加王墓」宮内庁管轄）は、墳丘の全長49mの前方後円墳である。上のびゅう塚古墳の周辺には戦前まで大塚古墳、稲荷塚古墳、塚山古墳などの前方後円墳が存在していたが、戦時中の陸軍飛行場建設工事において、唯一上のびゅう塚を残し他の古墳は簡単な発掘調査が実施された後に破壊されている[34]。調査の結果、上記の古墳3基については、横穴式石室の構造や土器などの副葬品から5世紀後半から6世紀にかけて築造されたものと考えられている[35]。目達原古墳群の中にある古稲荷塚古墳は、戦前の調査では円墳と考えられていたが、平成13、14年度の陸上自衛隊目達原駐屯地内施設整備に伴う確認調査で、前方部と後円部のくびれ部から前方部北縁を廻る周溝の一部が確認され、前方後円墳であった可能性が高くなった[36]。また町の北部の古墳としては、5世紀代の古墳で蛇行状鉄剣、蛇行状鉄矛を出土した船石天神宮境内の船石古墳1～3号墳[37]が知られている。古墳時代後期から終末期になると町北部の鎮西山の周辺山麓部や丘陵部に直径10m前後、高さ3～4m前後の規模が小さな円墳が数基単位でまとまって分布しており、谷波、青柳、新立、奥の院、鎮西山南麓、屋形原などの古墳群が点在している[38]。

古墳時代の集落遺跡としては、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中杖遺跡[39]、吉野ヶ里町（旧東脊振村）下石動遺跡[40]などが知られているが、弥生時代の集落に比べ、遺跡そのものの数も少なく、調査例も少ないため、未だ実態が明らかになっていないのが現状である。町内の遺跡については、4～5世紀代の集落遺跡は皆無であるが、鎮

西山南麓の屋形原遺跡1区・3区[41]、堤六本谷遺跡10区・11区[42]、青柳古墳群1区[43] などで6世紀代の竪穴建物跡が確認され、堤六本谷遺跡では集落の形成が9世紀代初頭まで継続している。一方、当時の政治的中心であったと考えられる町中南部の坊所、米多地区周辺における本格的な発掘調査の件数が数少なく、古墳時代の集落遺跡の発見が今後の課題といえる。

奈良・平安時代の遺跡としては、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中杖遺跡、吉野ヶ里町（旧東脊振村）辛上廃寺跡[44]、霊仙寺跡[45] などが知られているが、この時期の遺跡についてもまとまった調査例が少なく、実態はあまり解明されていない。当時の遺構として大規模なものは、佐賀平野に敷かれた条里制の遺構が上げられ、早くから地名などから条里の復元が試みられ、現在ではほとんどの条里が復元されている。また、大宰府から肥前国府へ通じる官道の調査も進み、近年部分的な発掘調査が行われている。

町内では堤土塁跡[46] や塔の塚廃寺跡[47] などが奈良時代の遺跡として、戦前から注目されている。町北部の堤地区の八藤丘陵と二塚山丘陵の間の谷底平野を遮断する形で築かれた堤土塁跡は、版築工法により築かれた福岡県の水城に似た施設＝「小水城」で、その築造目的が、大宰府の防衛施設であるとする説、灌漑用水確保のための溜池の堤防であるとする説など議論がなされてきたが、平成2、3年に実施した土塁の東方に接する八藤丘陵の調査において、土塁東端から一直線に八藤丘陵を東方へ横断する道路側溝状の遺構が検出され[48]、その性格付けにあらたに古代道の存在が想定されることとなった。また町南西部を占める目達原丘陵の南端部に位置する塔の塚廃寺跡は、百済系単弁軒丸瓦が発見され、戦前までは基壇、礎石の存在が知られていた奈良時代中期の寺院址で、目達原古墳群を営んだ米多国造一族の流れをくむ三根郡の郡司層によって建立したものと推定されている。

町内における奈良・平安時代の集落については、昭和62年に実施した農業基盤整備事業に伴う船石遺跡6区[49] 調査では奈良時代の掘立柱建物跡や土坑などが確認され、「肥人」「多機」とヘラ描きされた刻書土器が出土している。平成5、6年に行われた大規模小売店舗建設に先立つ坊所一本谷遺跡[50] では、奈良時代の掘立柱建物跡34棟、平安時代の竪穴建物跡33軒が確認されている。そのうち5棟の掘立柱建物跡がコの字形に配置されており、官衙施設に関連する施設と考えられている。坊所地区では、椿寺遺跡8・10・11区[51] の調査で奈良時代の竪穴建物跡が5軒確認されている。

中世になると、北部にある脊振山地の麓部の小峰に山城が築かれるようになり、沖積平野部には環濠を伴う平城や集落が出現する。町内の中世城館址としては、北部の鎮西山城跡、上峰町中央部の平野を臨む丘陵部に坊所城跡、町南部の平野部には米多城跡、前牟田城跡、江迎城跡、一の橋環濠集落、加茂環濠集落などが知られていた[52]。しかし、昭和40年代後半から行われた圃場整備事業によって、これら平野部の遺構は、原状がほとんど失われてしまった。そのようななかで、町の親水公園として整備された江迎城跡[53] での調査では掘立柱建物跡が検出され、13世紀後半代の中国産の龍泉窯系青磁碗や白磁皿などが出土している。宅地造成工事に伴い平成3年度に実施された坊所城跡の発掘調査では、二重土塁をはじめとして横堀・掘立柱建物跡・井戸跡などを検出し、16世紀後半代の中国産青花皿片が出土している[54]。鎮西山城跡[55] については、令和3年度より鎮西山全体の再整備事業に伴い、山頂一帯の発掘調査を開始している。令和3年度は副郭の全面調査を実施し、曲輪内から掘立柱建物跡・柵列跡などの遺構を検出している。また、以前より地表面観察により横堀が主郭や副郭の2つの曲輪を取り囲むように廻っていることが推定されていた[53] が、各地点に設置したトレンチ調査によって実際に横堀が2つの主要な曲輪全体を囲繞するように配置された状況を確認している。発掘調査では戦国時代の遺物は出土しなかったが、主要な曲輪の外縁全体を横堀で網羅している山城例は、近隣では16世紀代所産の鳥栖市葛籠城跡や神埼市横大路城跡など数少なく、この横堀の配置状況の類似点から山城として戦国時代まで機能していたものと考えられ

ている。また、12世紀中頃から13世紀代前半にかけての中国産の白磁や青磁の碗・皿、青白磁の合子、中国産陶器の壺・水注・瓶、土師器の坏・小皿、土師質土器の鍋や香炉などの多種多様な遺物が出土し、同じ時期の三昧場（火葬墓）と考えられる土坑や柱穴が円状に配置された建物跡が確認されている。このような状況から、山城が築城される前の平安時代の終わりから鎌倉時代の前期頃にかけて、山頂一帯に山岳寺院や修験道に関連した宗教的な施設が存在していたと考えられている。町内の中世の集落跡としては、西前牟田遺跡1・2区[54] 調査で井戸跡や土坑がまとまって確認され、各遺構内から12～14世紀代の白磁碗、同安窯系青磁碗・皿、土師器の坏・小皿、土師質土器の鍋片などが出土している。

以上、上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観したが、まさにこの地域は遺跡の密度、その内容ともに高く、遺跡の宝庫と呼ぶにふさわしい地域といえる。

註

1) 藤瀬禎博・石橋新次　『柚比遺跡群範囲確認調査第3年次概要報告書』　鳥栖市文化財調査報告書第30集
鳥栖市教育委員会　1980
2) 木下巧・天本祥一　『姫方遺跡』　佐賀県文化財調査報告書第30集　佐賀県教育委員会　1974
3) 七田忠昭　『検見谷遺跡』　北茂安町文化財調査報告書第2集　北茂安町教育委員会　1986
4) 金関丈夫・坪井清足・金関恕　「佐賀県三津永田遺跡」『日本農耕文化の生成』　日本考古学協会　1961
5) 七田忠昭他　『吉野ヶ里』　佐賀県文化財調査報告書第113集　佐賀県教育委員会　1992
渡部芳人他　「弥生時代総括編1」『吉野ヶ里遺跡』　佐賀県文化財調査報告書第227集　佐賀県　2020
6) 原田大介　『八藤遺跡Ⅲ』　上峰町文化財調査報告書第16集　上峰町教育委員会　1999
7) 七田忠志　「原始」『上峰村史』　上峰村　1979
8) 下山正一・西田民雄　「Ⅱ．佐賀県上峰町周辺の地形と地質」『佐賀平野の阿蘇4火砕流と埋没林』
上峰町文化財調査報告書第11集　上峰町教育委員会　1994
9) 高瀬哲郎・堤安信・久保伸洋　「香田遺跡」『香田遺跡』　九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書2
佐賀県文化財調査報告書第57集　佐賀県教育委員会　1981
10) 七田忠志　「佐賀県戦場ヶ谷遺跡」『史前学雑誌』　6－2・4　1934
11) 原田大介　『船石遺跡Ⅳ』　上峰町文化財調査報告書第9集　上峰町教育委員会　1991
原田大介　『船石遺跡Ⅴ』　上峰町文化財調査報告書第12集　上峰町教育委員会　1995
12) 原田大介　『八藤遺跡Ⅰ』　上峰町文化財調査報告書第13集　上峰町教育委員会　1997
原田大介　『八藤遺跡Ⅱ・堤土墓跡Ⅱ』　上峰町文化財調査報告書第14集　上峰町教育委員会　1998
前出（6）
13) 原田大介　『堤六本谷遺跡Ⅳ・堤三本松遺跡Ⅱ・堤三本柳遺跡Ⅱ・青柳古墳群Ⅰ』　上峰町文化財調査報告書第20集
上峰町教育委員会　2001
14) 金関丈夫・金関恕・原口正三　「佐賀県切通遺跡」『日本農耕文化の生成』　日本考古学協会　1961
15) 高島忠平・七田忠昭他　「二塚山遺跡」『二塚山』　佐賀県文化財調査報告書第46集　佐賀県教育委員会　1979
16) 七田忠昭　『一本谷遺跡』　上峰村文化財調査報告書　上峰村教育委員会　1983
17) 七田忠昭　『船石遺跡』　上峰村文化財調査報告書　上峰村教育委員会　1983
18) 鶴田浩二・原田大介　『船石遺跡Ⅱ図録編』　上峰村文化財調査報告書第6集　上峰村教育委員会　1988
鶴田浩二・原田大介　『船石遺跡Ⅱ本文編』　上峰村文化財調査報告書第7集　上峰村教育委員会　1989
原田大介　『船石遺跡Ⅲ』　上峰町文化財調査報告書第8集　上峰町教育委員会　1990
原田大介　『船石遺跡Ⅳ』　上峰町文化財調査報告書第9集　上峰町教育委員会　1991
原田大介　『船石遺跡Ⅵ・船石南遺跡Ⅳ』　上峰町文化財調査報告書第24集　上峰町教育委員会　2003
19) 原田大介　『船石南遺跡Ⅰ』　上峰町文化財調査報告書第21集　上峰町教育委員会　2002
原田大介　『船石南遺跡Ⅱ』　上峰町文化財調査報告書第22集　上峰町教育委員会　2002
原田大介　『船石南遺跡Ⅲ』　上峰町文化財調査報告書第23集　上峰町教育委員会　2003
原田大介　『船石遺跡Ⅵ・船石南遺跡Ⅳ』　上峰町文化財調査報告書第24集　上峰町教育委員会　2003

20）前出（12）
21）原田大介・伊達有彩・松本周作　「樫寺遺跡7～12区発掘調査」『上峰町内遺跡確認調査X』
上峰町文化財調査報告書第47集　上峰町教育委員会　2019
22）原田大介　『坊所二本松遺跡』　上峰町文化財調査報告書第15集　上峰町教育委員会　1998
原田大介　『坊所二本松遺跡Ⅱ』　上峰町文化財調査報告書第27集　上峰町教育委員会　2005
23）原田大介　『西前牟田遺跡Ⅰ』　上峰町文化財調査報告書第31集　上峰町教育委員会　2009
24）木下巧他　『姫方原遺跡』　佐賀県文化財調査報告書第33集　佐賀県教育委員会　1976
25）前出（15）
26）前出（16）
27）松尾禎作　「目達原古墳群調査報告」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』　第9輯　佐賀県教育委員会　1950
28）木下之治編　「船塚」『佐賀県の文化財』　佐賀県教育委員会　1976
29）石橋新次　『剣塚前方後円墳』　鳥栖市文化財調査報告書第22集　鳥栖市教育委員会　1984
30）志佐俊彦　『佐賀県立博物館調査研究書』第4集　佐賀県立博物館　1978
31）松尾禎作　『佐賀県考古大観』　祐徳博物館　1957
32）木下之治編　「伊勢塚」『佐賀県の文化財』　佐賀県教育委員会　1986
33）前出（31）
34）前出（27）
35）蒲原宏之　「第3章　肥前」『前方後円墳集成　九州編』　山川出版社　1992
36）原田大介　『上峰町内遺跡確認調査Ⅲ』　上峰町文化財調査報告書第34集　上峰町教育委員会　2012
37）前出（17）
38）七田忠志　「古代」『上峰村史』　上峰村　1979
39）七田忠昭・高山久美子・西田和己　『下中杖遺跡』　佐賀県文化財調査報告書第54集　佐賀県教育委員会　1980
40）高瀬哲郎他　「下石動遺跡」『下石動遺跡』　九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書（6）　佐賀県文化財調査報告書第86集　佐賀県教育委員会　1987
41）杠一義　「屋形原遺跡」　上峰村文化財調査報告書第2集　上峰村教育委員会　1979
原田大介　「堀六本谷遺跡Ⅰ・屋形原遺跡Ⅱ」上峰町文化財調査報告書第17集　上峰町教育委員会　2000
42）原田大介　『堀六本谷遺跡Ⅲ・堤三本松遺跡Ⅰ・堤三本柳遺跡Ⅰ』　上峰町文化財調査報告書第19集　上峰町教育委員会　2000
前出（13）
43）前出（13）
44）松尾禎作　「東脊振村辛上廃寺跡の調査」　『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』第5輯　佐賀県　1936
45）田平徳栄他　『雲仙寺跡』　東脊振村文化財調査報告書第4集　東脊振村教育委員会　1980
46）高島忠平・杠一義　『堤土器跡』　上峰村文化財調査報告書　上峰村教育委員会　1978
47）松尾禎作　「塔の原廃寺址」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』　第7輯　佐賀県　1940
48）前出（12）
原田大介　『八藤遺跡Ⅲ』　上峰町文化財調査報告書第16集　上峰町教育委員会　1999
49）前出（18）
50）七田忠昭　「古代」『上峰町史』　上峰町　2021
51）前出（21）
52）米倉二郎　「中世」『上峰村史』　上峰村　1979
53）原田大介　『上峰町内遺跡確認調査Ⅰ』　上峰町文化財調査報告書第32集　上峰町教育委員会　2010
54）原田大介　『坊所城跡』　上峰町文化財調査報告書第10集　上峰町教育委員会　1992
55）松浦智・中田裕樹・磯村康行　『鎮西山城跡Ⅰ』　上峰町文化財調査報告書第55集　2022
56）宮武正登　『佐賀県中近世城館跡祭急分布調査報告書Ⅱ　佐賀県の中近世城館　第2集
各説編（三養基・神埼・佐賀地区）』　佐賀県文化財調査報告書第201集　佐賀県教育委員会　2013
57）前出（23）

Ⅱ．調査の概要

1．調査に至る経緯

上峰町教育委員会では、平成元年度より、国庫補助事業の適用を受け、埋蔵文化財保護と開発との調整を図るため開発行為に伴い町内遺跡について事前の確認調査を実施してきた。民間あるいは公共機関等が主体となって実施される町内における各種開発行為について事前に協議を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地の内外にかかわらず、これまでに埋蔵文化財発掘調査歴がない土地については、開発面積や工法等の制約がない限り、開発主体者等に事前の確認調査の実施にむけた協力を要請している。

2．調査の方法

確認調査の方法は、開発予定地に面積的、地形的な制約がない場合、原則として10m×3mの試掘溝により地下の遺構・遺物の有無を確認することとしている。図上で開発予定範囲全体に10mのメッシュを組み、このメッシュに10m×3mの試掘溝を一マスおきに市松模様状に設定し、試掘溝の配置計画を作成している。この試掘溝配置計画をもとに現地で試掘溝を設定し、確認調査を実施している。

また、開発面積に対する試掘面積の割合は、事前に図上で試掘溝を設定する時点ではおおむね開発面積の10%を目途としているものの、実際の調査では現地の種々の制約により、試掘溝の規模、配置等は臨機応変な対応を採ることも多く、試掘面積を縮小せざるを得ない場合も少なくはない。

各試掘溝の掘削については、遺構検出面までの掘削には可能な限り重機を使用しているが、重機が使用できない場合、包含層や遺構の掘り下げなどそれ以上の精査が必要な場合などは作業員の人力により掘削を行っている。

試掘の結果、遺構などが検出された試掘溝については、適宜、遺構配置等の略測を行い、縮尺1/100程度の平面図、縮尺1/20程度の土層断面図を作成し、デジタルカメラによる写真撮影を行い記録としている。作業終了後は、原則として試掘溝は埋め戻しを行い原状への復旧を図っている。

また、確認調査の結果、開発予定地内から遺構や遺物が検出された場合で、かつ、調査原因が個人専用住宅の建設、個人による自己所有農地の改良など、遺跡の記録保存等に係る経費について、これを開発主体者に求めることが困難であると認められる場合は、本補助事業の予算の範囲内において、検出された地下の埋蔵文化財に工事の影響が及ぶ範囲について記録保存を目的とした必要最小限の本調査を実施することとしている。

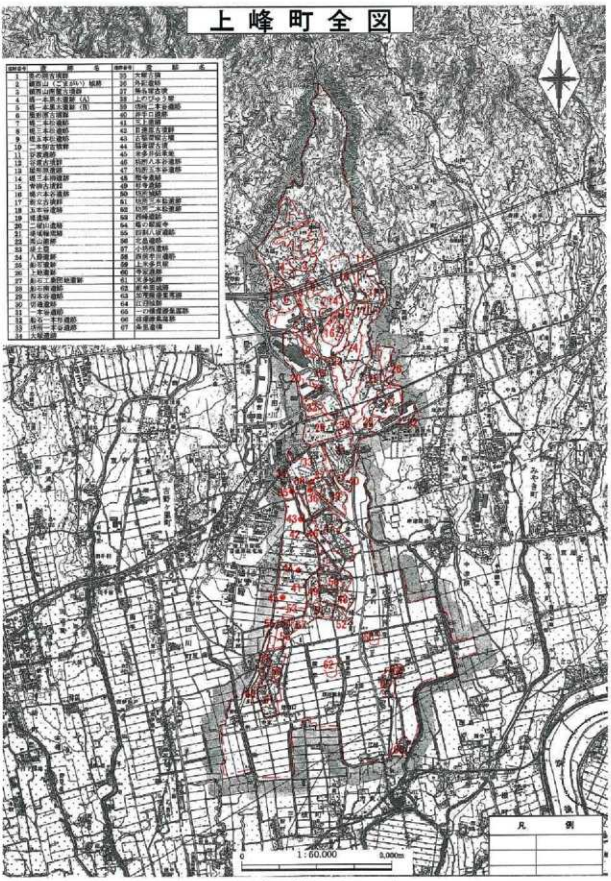


Fig. 2　上峰町遺跡地図（1/50,000）

Ⅲ．令和4年度の確認調査

Tab.1　令和4年度　町内遺跡確認調査一覧表

№	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(㎡)	調査面積(㎡)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	三上遺跡(1)	上峰町大字坊所字西峰 2834番1	個人	共同住宅建設工事	958	72	令和4年5月16日 令和4年5月17日	焼土坑・ピットを確認した。遺物は確認できなかった。	下水道工事立会後、工事実施	確認した遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。
2	坊所二本谷遺跡(1)	上峰町大字坊所字二本谷 1570番4 1570番29 1570番170 2508番1	医療法人芳生会 和田内科循環器科	病院施設建設工事	2,079	150	令和4年5月19日 令和4年5月20日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
3	西峰遺跡(1) 塔の塚廃寺跡	上峰町大字坊所字西峰 2874番 2878番1 上峰町大字坊所字西峰 2879番1 2879番3	株式会社CTW	分譲宅地造成工事	1,937 292	120 23	令和4年5月24日 令和4年5月25日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	2つの遺跡にまたがる同一の開発工事
4	三上遺跡(2)	上峰町大字坊所字三上 3211番1 3211番2 3211番3	個人	共同住宅建設工事	971	72	令和4年6月1日 令和4年6月2日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
5	船石遺跡	上峰町大字堤字二本谷 1384番	個人	個人専用住宅建設工事	251	4	令和4年6月16日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
6	坊所三本松遺跡	上峰町大字坊所字三本松 900番1 901番1 901番2 902番3 902番4	株式会社駅前工務店	分譲建売住宅建設工事	2,067	110	令和4年6月28日 令和4年6月29日	竪穴建物跡・土坑・ピットを確認した。古代の須恵器甕片・高台坏片や土師器片が出土した。	確認した遺構については、工事の影響が及ばないよう開発者と協議中	
7	西前牟田遺跡	上峰町大字前牟田字蔵園町 1650番	個人	個人専用住宅建設工事	396	30	令和4年7月25日	竪穴建物跡・溝状遺構・土坑・ピット・性格不明遺構を確認した。古代の土師器甕片・坏片、黒曜石片が出土した。	下水道工事立会後、工事実施	確認した遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。
8	三上遺跡(3)	上峰町大字坊所字西峰 2843番1	大英産業株式会社	分譲建売住宅建設工事	1,711	150	令和4年7月27日 令和4年7月28日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
9	三上遺跡(4)	上峰町大字坊所字西峰 2922番1	個人	共同住宅建設工事	961	40	令和4年8月9日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	

№	遺　跡　名	所　在　地	原　因　者	事業内容	工事面積(㎡)	調査面積(㎡)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備　考
10	杉寺遺跡	上峰町大字坊所字杉寺 1349番1 1349番4	個人	店舗併用住宅建設工事	728	60	令和4年8月26日	竪穴建物跡・ピットを確認した。弥生時代と考えられる土師器坏片が出土した。	下水道の工事立会後、工事実施	確認した遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。
11	三上遺跡(5)	上峰町大字坊所字西峰 2935番1 2936番1	有限会社ランド開発	分譲建売住宅建設工事	1,843	20	令和4年9月14日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
12	西峰遺跡(2)	上峰町大字坊所字西峰 2904番1	個人	共同住宅建設工事	939	90	令和4年10月12日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
13	三上遺跡(6)	上峰町大字坊所字三上 3159番2 3161番	個人	共同住宅建設工事	2,025	200	令和4年10月14日 令和4年10月15日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
14	外記遺跡(1)	上峰町大字坊所字七本谷 1570番91 1570番210	個人	個人専用住宅建設工事	354	16	令和4年10月18日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
15	坊所五本谷遺跡	上峰町大字坊所字五本谷 1871番4	個人	個人専用住宅建設工事	340	16	令和4年10月18日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
16	坊所二本谷遺跡(2)	上峰町大字坊所字七本谷 1570番109 1570番130 1570番160 1570番161 1570番204の各一部	有限会社有志堂薬局	店舗建設工事	92	5	令和4年10月26日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
17	西峰遺跡(3)	上峰町大字坊所字西峰 2875番1 2876番1	株式会社塩舎	分譲建売住宅建設工事	1,945	180	令和4年11月21日 令和4年11月22日	土坑・ピットを確認した。土坑より土師器片・瓦片が出土した。また、盛土層より須恵器片・土師器片・瓦片が出土した。	下水道工事立会後、工事実施	確認した遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。
18	坊所二本松遺跡	上峰町大字坊所字二本松 333番1 333番2	合同会社家族	埋蔵文化財の有無確認	783	56	令和4年11月30日	弥生時代の甕棺墓、中世と考えられる溝状遺構・土坑・ピットを確認した。甕棺の破片が少量出土した。	埋蔵文化財有り	
19	三上遺跡(7)	上峰町大字坊所字三上 3175番1 3178番	個人	共同住宅建設工事	2,839	270	令和4年12月13日 令和4年12月14日	溝状遺構・ピットを確認した。古代と考えられる土師器片・須恵器片が出土した。	上下水道工事立会後、建設工事実施予定	確認した遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。

№	遺　跡　名	所　在　地	原　因　者	事業内容	工事面積(㎡)	調査面積(㎡)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備　　考
20	外記遺跡(2)	上峰町大字坊所字五本谷 1796番22	個人	個人専用住宅建設工事	210	20	令和4年12月20日	竪穴建物跡・ピットを確認した。遺物は確認できなかった。	工事実施	確認した遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。
21	四本谷遺跡	上峰町大字堀字四本谷 1903番149	個人	個人専用住宅建設工事	290	12	令和5年2月3日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
22	外記遺跡(3)	上峰町大字坊所字七本谷 1796番8 1570番80	株式会社駅前工務店	建売住宅建設工事	242	12	令和5年2月14日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施予定	
				合計	24,243	1,728				

Fig. 3　令和4年度　確認調査地位置図（1/50,000）

R04－1

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2834番1

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：958㎡

調査面積：72㎡

調査時期：令和4年5月16日、17日

立地と環境：　三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約 8～16m 付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は、目達原丘陵の南部、標高 8～9m 付近に位置しており、これまで畑地として利用されていた。

遺構と遺物：焼土坑・ピットを確認した。遺物は確認できなかった。

調査後措置：下水道工事立会後、工事実施。確認した遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。

Fig. 4　三上遺跡(1)（1/5,000）

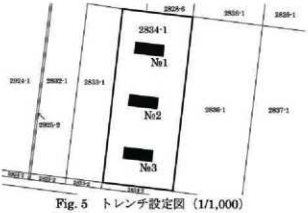
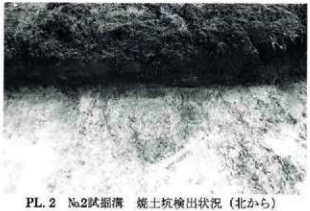


Fig. 5　トレンチ設定図（1/1,000）

PL. 1　№2試掘溝（東から）



PL. 2　№2試掘溝　焼土坑検出状況（北から）

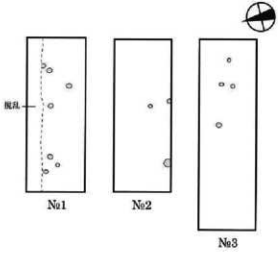


Fig. 6　トレンチ略図（1/200）

R04－2

遺跡名：坊所二本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字二本谷1570番4、1570番29、1570番170、2508番1

工事内容：病院施設建設工事

工事面積：2,079㎡

調査面積：150㎡

調査時期：令和4年5月19日、20日

立地と環境　坊所二本谷遺跡は、本町堤地区付近から井出口住宅地区付近へ延びる井手口西丘陵の南部、標高 12～24m 付近に広がる弥生時代の集落跡である。

調査対象区域は、目達原丘陵から本町坊所地区へ派生する坊所丘陵の東端部、標高 19m 付近に位置しており、これまで近隣施設の駐車場として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig. 7　坊所二本谷遺跡(1)（1/5,000）

PL. 3　調査地近景（南から）

PL. 4　№1試掘溝（北から）

PL. 5　№1試掘溝断面

R04－3

遺跡名：西峰遺跡(1)、塔の塚廃寺跡

調査地：上峰町大字坊所字西峰2874番、2878番1

※上記は西峰遺跡(1)の所在地

上峰町大字坊所字西峰2879番1、2879番3

※上記は塔の塚廃寺跡の所在地

工事内容：分譲宅地造成工事

※2つの遺跡にまたがる同一の開発工事

工事面積：1,937㎡　※西峰遺跡(1)の工事面積

292㎡　※塔の塚廃寺跡の工事面積

調査面積：120㎡　※西峰遺跡(1)の調査面積

23㎡　※塔の塚廃寺跡の調査面積

調査時期：令和4年5月24日、25日

立地と環境：　西峰遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の南部、標高 8～9m 付近に広がる弥生時代から古墳時代に及ぶ集落・墳墓遺跡である。

一方、塔の塚廃寺跡は、西峰遺跡の南隣に位置する奈良時代の社寺跡である。昭和 17 年頃までは、高さ 0.7m、南北約 11.5m、東西約 10.9m の方形の土盛りの基壇や礎石が存在していた。

調査対象区域は、目達原丘陵の南部、標高 8～9m 付近に位置しており、これまで畑地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig.8　西峰遺跡(1)、塔の塚廃寺跡（1/5,000）

PL. 6　調査地近景（南西から）

PL. 7　№1試掘溝（北から）

PL. 8　№6試掘溝（北西から）

R04－4

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字三上3211番1、3211番2、3211番3

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：971㎡

調査面積：72㎡

調査時期：令和4年6月1日、2日

立地と環境：　三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8～16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は、目達原丘陵の中央部、標高15m付近に位置しており、これまで畑地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig. 9　三上遺跡(2)（1/5,000）

PL. 9　調査地近景（南東から）

R04－5

遺跡名：船石遺跡

調査地：上峰町大字堤字二本谷1384番

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：251㎡

調査面積：4㎡

調査時期：令和4年6月16日

立地と環境：　船石遺跡は、みやき町高柳集落付近から本町切通付近へ派生する船石丘陵一帯に所在する弥生時代の集落、墳墓を主体とする縄文時代から中世に及ぶ複合遺跡である。

調査対象区域は、船石丘陵の北西部、標高28m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig. 10　船石遺跡（1/5,000）

PL. 10　№1試掘溝（西から）

R04－6

遺跡名：坊所三本松遺跡

調査地：上峰町大字坊所字三本松900番1、901番1、901番2、902番3、902番4

工事内容：分譲建売住宅建設工事

工事面積：2,057㎡

調査面積：110㎡

調査時期：令和4年6月28日、29日

立地と環境：　坊所三本松遺跡は、上峰町大字坊所字三本松に所在する弥生時代の集落跡で、町の中央部坊所丘陵の南端部、丘陵本体から馬の背状に東へ向かって伸びる支丘上に位置している。

　調査対象区域は、標高 11～12m 付近に位置しており、これまでは宅地・山林・畑地であった。

遺構と遺物：竪穴建物跡・土坑・ピットを確認した。古代の須恵器甕片・高台坏片や土師器片が出土した。

調査後措置：確認した遺構については、開発工事の影響が及ばないよう開発者と協議中。

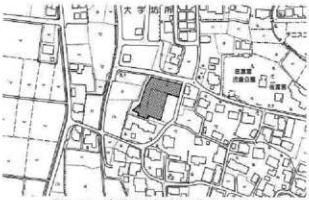


Fig. 11　坊所三本松遺跡（1/5,000）

Fig. 12　トレンチ設定図（1/1,500）

PL. 11　調査地近景（北東から）

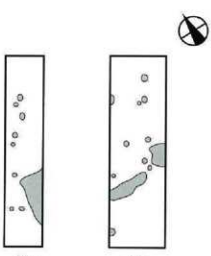


Fig. 13　トレンチ略図（1/200）

PL. 12　№2試掘溝（南から）

PL. 13　No.2試掘溝　竪穴建物跡検出状況(北西から)

PL. 14　No.2試掘溝断面

PL. 15　No.4試掘溝（南から）

PL. 16　No.4試掘溝　遺構検出状況（北東から）

PL. 17　No.4試掘溝断面

PL. 18　No.2試掘溝　機械掘削状況

R04－7

遺跡名：西前牟田遺跡

調査地：上峰町大字前牟田字紙園町1650番

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：396㎡

調査面積：30㎡

調査時期：令和4年7月25日

立地と環境：　西前牟田遺跡は、本町南西部現上米多集落付近へ延びる目達原丘陵南端部の微高地上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域はこの目達原丘陵の南端部の微高地、標高 4～5m 付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：竪穴建物跡・溝状遺構・土坑・ピット・性格不明遺構を確認した。古代の土師器甕片・坏片、黒曜石片が出土した。

調査後措置：下水道工事立会後、工事実施。確認した遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。

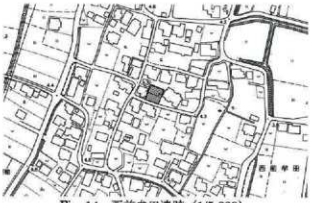


Fig. 14　西前牟田遺跡（1/5,000）

Fig. 15　トレンチ設定図（1/1,000）

PL. 19　№1試掘溝（東から）

PL. 20　№2試掘溝（南から）

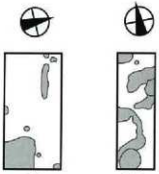


Fig. 16　トレンチ略図（1/200）

R04－8

遺跡名：三上遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2843番1

工事内容：分譲建売住宅建設工事

工事面積：1,711㎡

調査面積：150㎡

調査時期：令和4年7月27日、28日

立地と環境：　三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約 8～16m 付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は、目達原丘陵の南部、標高 9m 付近に位置しており、これまで畑地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig. 17　三上遺跡(3)（1/5,000）

PL. 21　調査地近景（南東から）

R04－9

遺跡名：三上遺跡(4)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2922番1

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：961㎡

調査面積：40㎡

調査時期：令和4年8月9日

立地と環境：　三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約 8～16m 付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は、目達原丘陵の南部、標高 8～9m 付近に位置しており、これまで畑地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig. 18　三上遺跡(4)（1/5,000）

PL. 22　No.1試掘溝（東から）

R04－10

遺跡名：杉寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字杉寺1349番1、1349番4

工事内容：店舗併用住宅建設工事

工事面積：728㎡

調査面積：60㎡

調査時期：令和4年8月26日

立地と環境：　杉寺遺跡は、本町大字坊所字杉寺に所在する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

調査対象地は、目達原丘陵から本町坊所地区へ派生する坊所丘陵の標高 8m 付近に位置しており、これまでは宅地として利用されていた。

遺構と遺物：整穴建物跡・ピットを確認した。奈良時代と考えられる土師器坏片が出土した。

調査後措置：下水道工事立会後、工事実施。確認した遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。

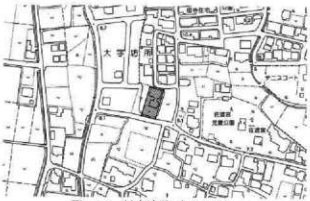


Fig. 19　杉寺遺跡（1/5,000）

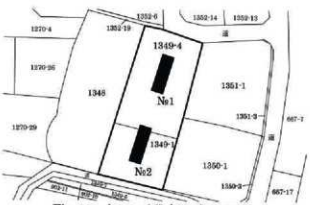


Fig. 20　トレンチ設定図（1/1,000）

PL. 23　調査地全景（南上空から）

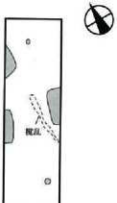


Fig. 21　トレンチ略図（1/200）

PL. 24　№1試掘溝　遺構検出状況（写真上が東）

R04－11

遺跡名：三上遺跡(5)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2935番1、2936番1

工事内容：分譲建売住宅建設工事

工事面積：1,843㎡

調査面積：20㎡

調査時期：令和4年9月14日

立地と環境：　三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約 8～16m 付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は、目達原丘陵の南部、標高 9m 付近に位置しており、米多井伝承地の近傍にあたる。これまで畑地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig. 22　三上遺跡(5)（1/5,000）

PL. 25　調査地近景（南西から）

R04－12

遺跡名：西峰遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2904番1

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：939㎡

調査面積：90㎡

調査時期：令和4年10月12日

立地と環境：　西峰遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の南部、標高 8～9m 付近に広がる弥生時代から古墳時代に及ぶ集落・墳墓遺跡である。

調査対象区域は、目達原丘陵の南部、標高 8～9m 付近に位置しており、これまで畑地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig. 23　西峰遺跡(2)（1/5,000）

PL. 26　№2試掘溝（東から）

R04－13

遺跡名：三上遺跡(6)

調査地：上峰町大字坊所字三上3159番2、3161番

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：2,025㎡

調査面積：200㎡

調査時期：令和4年10月14日、15日

立地と環境：　三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8～16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

　調査対象区域は、目達原丘陵の南部、標高8～9m付近に位置しており、これまで畑地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig. 24　三上遺跡(6)（1/5,000）

PL. 27　調査地全景（南上空から）

R04－14

遺跡名：外記遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字七本谷1570番91、1570番210

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：354㎡

調査面積：16㎡

調査時期：令和4年10月18日

立地と環境：　外記遺跡は、本町郡境地区付近から下津毛地区へ延びる下津毛丘陵北部、標高15～21m付近に所在する弥生時代から中世にかけての集落・墳墓遺跡である。

　調査対象区域は、下津毛丘陵の基部、標高17m付近に位置しており、外記溜池の東側に位置する。これまで畑地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig. 25　外記遺跡(1)（1/5,000）

PL. 28　調査地近景（東から）

R04－15

遺跡名：坊所五本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字五本谷1871番4

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：340㎡

調査面積：16㎡

調査時期：令和4年10月18日

立地と環境：　坊所五本谷遺跡は、本町郡境集落付近から下津毛集落付近へ延びる下津毛丘陵の南部、標高 7～16m 付近に広がる弥生、古墳時代の集落及び墳墓遺跡である。

調査対象区域は、下津毛丘陵の南部、標高 14m 付近に位置している。これまで宅地として利用され、現在は旧家屋解体後盛土され、更地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

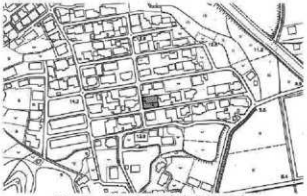


Fig. 26　坊所五本谷遺跡（1/5,000）

PL. 29　調査地近景（南西から）

R04－16

遺跡名：坊所二本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字七本谷1570番109、1570番130、1570番160、1570番161、1570番204の各一部

工事内容：店舗建設工事

工事面積：92㎡

調査面積：5㎡

調査時期：令和4年10月26日

立地と環境：　坊所二本谷遺跡は、本町堤地区付近から井手口住宅地区付近へ延びる井手口西丘陵の南部、標高 12～24m 付近に広がる弥生時代の集落跡である。

調査対象区域は、本町群境付近から井手口地区へ派生する井手口西丘陵の標高 18m 付近に位置しており、これまで宅地・雑種地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig. 27　坊所二本谷遺跡(2)（1/5,000）

R04－17

遺跡名：西峰遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2875番1、2876番1

工事内容：分譲建売住宅建設工事

工事面積：1,945㎡

調査面積：180㎡

調査時期：令和4年11月21日、22日

立地と環境：　西峰遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の南部、標高 8～9m 付近に広がる弥生時代から古墳時代に及ぶ集落・墳墓遺跡である。

調査対象区域は、目達原丘陵の南部、塔の塚廃寺跡の北 50m、標高 9m 付近に位置している。これまで畑地として利用されていた。

遺構と遺物：土坑・ピットを確認した。土坑より土師器片・瓦片が出土した。また、盛土層より須恵器片・土師器片・瓦片が出土した。

調査後措置：下水道工事立会後、工事実施。確認した遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。

Fig. 28　西峰遺跡(3)（1/5,000）

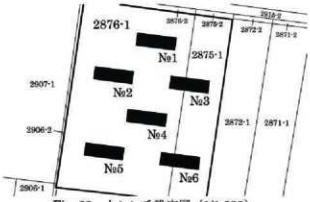


Fig. 29　トレンチ設定図（1/1,000）

PL. 30　№2試掘溝（西から）

PL. 31　№3試掘溝（西から）

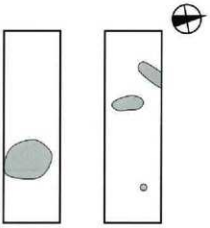


Fig. 30　トレンチ略図（1/200）

R04－18

遺跡名：坊所二本松遺跡

調査地：上峰町大字坊所字二本松333番1、333番2

工事内容：埋蔵文化財の有無確認

工事面積：783㎡

調査面積：56㎡

調査時期：令和4年11月30日

立地と環境：　坊所二本松遺跡は、本町中南部の坊所丘陵の南部、下坊所丘陵南端からさらに南東に延びる一支丘の標高 6～8m 付近に位置している弥生、古墳時代の集落・墳墓跡である。

　調査対象区域は、下坊所丘陵の標高 7 m 付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：弥生時代の甕棺墓、中世と考えられる溝状遺構・土坑・ピットを確認した。甕棺の破片が少量出土した。

調査後措置：埋蔵文化財有り。

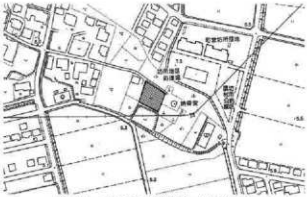


Fig. 31　坊所二本松遺跡（1/5,000）

Fig. 32　トレンチ設定図（1/1,000）

PL. 32　調査地全景（南上空から）

PL. 33　№1試掘溝（東から）

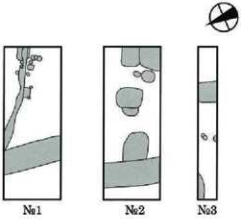


Fig. 33　トレンチ略図（1/200）

PL. 34　No.1試掘溝　遺構検出状況（写真上が北）

PL. 35　No.2試掘溝（東から）

PL. 36　No.2試掘溝　遺構検出状況（写真上が北）

PL. 37　No.2試掘溝　甕棺検出状況（東から）

PL. 38　No.2試掘溝断面

PL. 39　No.3試掘溝（東から）

PL. 40　No.3試掘溝　遺構検出状況（写真上が北）

PL. 41　No.3試掘溝　甕棺検出状況（南から）

R04－19

遺跡名：三上遺跡(7)

調査地：上峰町大字坊所字三上3175番1、3178番

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：2,839㎡

調査面積：270㎡

調査時期：令和4年12月13日、14日

立地と環境：　三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約 8～16m 付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

　調査対象区域は、目達原丘陵の北部、標高 15m 付近に位置しており、これまで田地として利用されていた。

遺構と遺物：溝状遺構・ピットを確認した。古代と考えられる須恵器片・土師器片が出土した。

調査後措置：上下水道工事立会後、建設工事実施予定。確認した遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存

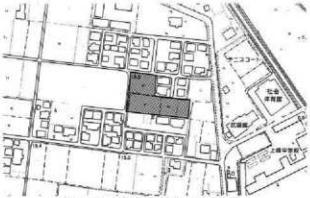


Fig. 34　三上遺跡(7)（1/5,000）

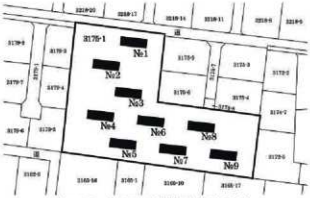


Fig. 35　トレンチ設定図（1/1,500）

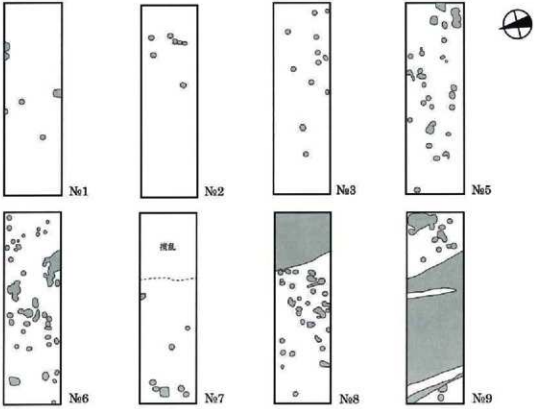


Fig. 36　トレンチ略図（1/200）

PL. 42　調査地全景（南上空から）

PL. 43　No.1試掘溝　遺構検出状況（写真上が南）

PL. 44　No.2試掘溝　遺構検出状況（写真上が南）

PL. 45　No.3試掘溝　遺構検出状況（写真上が南）

PL. 46　No.5試掘溝　遺構検出状況（写真上が南）

PL. 47　No.6試掘溝　遺構検出状況（写真上が南）

PL. 48　No.7試掘溝　遺構検出状況（写真上が南）

PL. 49　No.9試掘溝　遺構検出状況（写真上が南）

R04－20

遺跡名：外記遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字五本谷1796番22

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：210㎡

調査面積：20㎡

調査時期：令和4年12月20日

立地と環境：　外記遺跡は、本町郡境地区付近から下津毛地区へ延びる下津毛丘陵北部、標高15～21m付近に所在する弥生時代から中世にかけての集落・墳墓遺跡である。

　調査対象区域は、下津毛丘陵の基部、標高17m付近に位置しており、外記溜池の東側に位置する。これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：竪穴建物跡・ピットを確認した。遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施。確認した遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。

Fig. 37　外記遺跡(2)（1/5,000）

Fig. 38　トレンチ設定図（1/500）

PL. 50　№1試掘溝（西から）

PL. 51　№2試掘溝（西から）

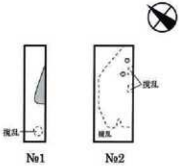


Fig. 39　トレンチ略図（1/200）

R04－21

遺跡名：四本谷遺跡

調査地：上峰町大字堤字四本谷1903番149

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：290㎡

調査面積：12㎡

調査時期：令和5年2月3日

立地と環境：　四本谷遺跡は、本町中北部、現切通集落西方、二塚山丘陵の南部、標高 20～38 m 付近に位置する弥生時代の集落跡である。

　調査対象区域は、井手口丘陵の北部、標高 27m 付近に位置しており、これまでで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

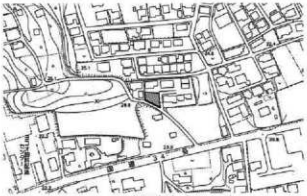


Fig. 40　四本谷遺跡（1/5,000）

PL. 52　No.1試掘溝（北から）

R04－22

遺跡名：外記遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字七本谷1796番8、1570番80

工事内容：建売住宅建設工事

工事面積：242㎡

調査面積：12㎡

調査時期：令和5年2月14日

立地と環境：　外記遺跡は、本町郡境地区付近から下津毛地区へ延びる下津毛丘陵北部、標高 15～21m 付近に所在する弥生時代から中世にかけての集落・墳墓遺跡である。

　調査対象区域は、下津毛丘陵の基部、標高 18m 付近に位置しており、外記溜池の東側に位置する。これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施予定

Fig. 41　外記遺跡(3)（1/5,000）

PL. 53　調査地近景（北から）

報告書抄録

ふりがな	かみみねちょうないいせきかくにんちょうさXV
書名	上峰町内遺跡確認調査XV
副書名	上峰町内における開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査報告書　―令和4年度―
巻次	
シリーズ名	上峰町文化財調査報告書
シリーズ番号	第57集
編著者名	松浦　智
編集機関	上峰町教育委員会
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4　上峰町民センター内　Tel 0952-52-3833/Fax 0952-52-3888
発行年月日	2024年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積㎡	調査原因
町内遺跡（ちょうないいせき）	佐賀県三養基郡上峰町一円（さがけんみやきぐん かみみねまち）	41345				2022.4 ～ 2023.3		町内における各種開発行為

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
町内遺跡	集落跡 墳墓跡	弥生 古墳 奈良・平安 中世	竪穴建物跡・甕棺墓・溝状遺構・土坑・ピット・性格不明遺構など	弥生土器・土師器・須恵器瓦片など	

上峰町文化財調査報告書第57集

上峰町内遺跡確認調査XV

令和6年3月31日　発行

編集
発行　上峰町教育委員会
佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4

印刷　大同印刷株式会社
佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20

発掘現場から
文化力
POWER OF CULTURE